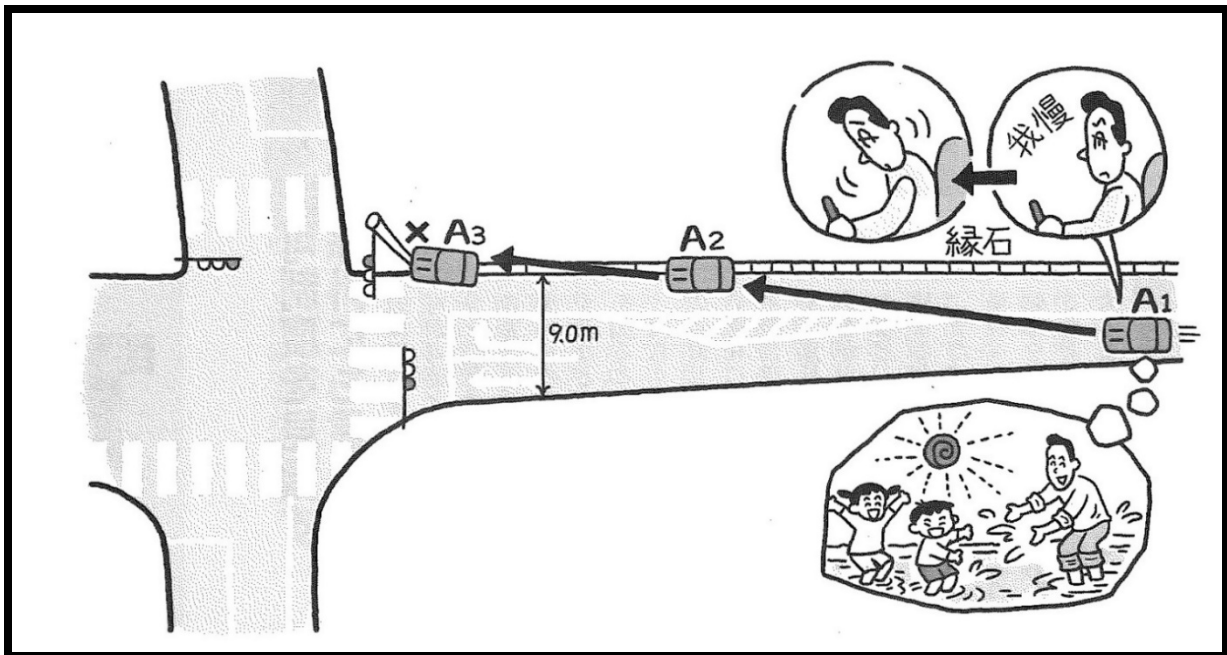


■事故の概況



事故類型：車両単独

発生日時：春 晴れ 午後

当事者A：普通乗用車 40歳代 男性

■ 事故の概要

Aは、行楽から帰宅中、片側1車線の直線道路を友人の先行車に続いて時速約50kmで走行していました。昼間、海で遊んでびしょ濡れになったので、車中は暖房していました。途中眠気に襲われましたが自宅までそれほどの距離もなく、前を走っている友人の車を停めるのも悪いと思い、眠気をなんとかしようと、飴をなめたりなどして、眠気を我慢して運転していました。

しかし、Aは事故現場数100m手前から居眠り状態になり、反対車線方向にはみ出したことに気づかず、そのまま右側縁石に乗り上げて交差点右角の信号柱に衝突してしまいました。

■ 事故から学ぶ

天気が良く気温が高くと、健康な状態でも気がゆるみがちになります。さらに、紫外線や潮風にあたると知らないうちに体が疲れた状態になっています。

Aは眠気を感じながらも、無理に運転を続けたことで事故を起こしてしまいました。その背景には、「先行する友人を停めるのは悪い」という思いがあったようですが、結果的に事故を起こしてしまい、乗せていた子どもたち共々怪我をしてしまいました。

幸いにも対向車がなく、縁石に乗り上げたことで信号柱への衝突速度も減速され、全員軽傷ですみましたが、一步間違えば大事故になっていたでしょう。

少しでも眠気や疲労を感じたら、無理をせずにこまめに十分な休息や仮眠をとるなどして、眠気を解消することが大切です。